保育サポーターバンク通信

2015年（平成27年）10月発行　一般社団法人山口県医師会　〒753-0814　山口市吉敷下東3-1-1　TEL090-9502-3715　FAX083-922-2527

「みんなちがって　みんないい」をめざして

山口県医師会男女共同参画部会長　黒川　典枝

平成21年に開設された保育サポーターバンクも運営7年目を迎えました。サポーターさんに協力してもらいながら仕事を継続している女性医師の姿を目にすると、本当に嬉しく思います。

男性医師と比べて女性医師の場合、様々なライフイベントに応じてその多様性が顕著となってきます。仕事に対するモチベーションの多様性、ワークライフバランスに関する多様性、子育てに関するこだわりの多様性。子どもさんも、健康な子、病気がちの子、障害をもった子と様々です。その多様性を理解してもらうためには、周囲の方々と十分に話し合うことが大切だと思います。また、自分ひとりの希望や価値観だけで決めるのではなく、周囲の方々の意見や期待も考慮する柔軟な心が必要です。今日のような少子高齢化社会では、医師として働くことと同様に、子どもを産み育てることも、とても大切な社会貢献です。医師と母親（あるいは父親）という二足のわらじをはくことは困難も多いと思いますが、様々な人々の協力を得て、たくましく乗り切っていってください。少し先を歩いてきた先輩として、我々は若い医師のみなさんを支え続けたいと思います。今年度、山口大学医学部医学科の4割は女子医学生です。「みんなちがって　みんないい」・・・多様性を認めながら、皆が力を発揮できる、そんな社会をめざして、皆で歩いていきましょう。

登録していただいているサポーターさん、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。また、若い医師のみなさん、このサポーターバンクを大いに活用してください。大切な出会いもあるかもしれません。まずはお気軽に保育相談員までご連絡ください。お待ちしています。

保育サポーターバンクのご発展を期待して

山口県健康福祉部医療政策課長　國光　文乃

平素より、本県の保健医療行政の推進に、格別の御尽力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

近年、県内の34歳以下の女性医師比率は25％、山口大学医学部の女子医学生比率は39％となるなど、若手を中心に女性医師の増加が見込まれ、それに伴い、保育等のニーズの高まりも予想されます。

このような状況の中、女性医師の方々が、妊娠、出産、子育て期間において、安心して勤務を続けられる環境の整備が重要であることから、山口県医師会におかれて、平成21年度より全国的にもいち早く保育サポーターバンクを立ち上げられ、女性医師に対する保育支援等を積極的に行っておられることに深く敬意を表します。

山口県としても、貴会と連携し、更なる仕事と家庭の両立に向け、女性医師が働きやすい職場環境づくりを行う病院に対して当直免除に関する助成等を行うとともに、「保育サポーターバンク」との連携のもと、保育相談員による相談窓口を開設し、保育相談等に対応しています。この場をお借りして、運営に携わっていただいている皆様の御尽力に、心から感謝申し上げます。

女性医師の皆様におかれましては、様々と御心配事がおありかと思いますが、一人で悩まず、まずはこの相談窓口に御相談いただくことで、仕事と家庭の両立を図られ、安心して医師として仕事を続けられますことを願っております。小職自身も、1女性医師として、7歳の子の育児と仕事との両立に日々追われていますが、自分自身で全てこなすことは自ずと限界があり、いつでも相談先があること、必要な時に育児のサポートが得られることが、随分安心につながってきたように思います。

県として、今後益々、出産・子育てをはじめとしたライフステージに応じた女性医師のキャリア継続を支援してまいります。

最後に、サポーターバンクのますますの御発展と、保育サポーターの皆様の御活躍を祈念いたしまして、県からの感謝の言葉とさせていただきます。

第6回 保育サポーター研修会

6回目となる研修会を本年3月15日（日）に山口市の県医師会会議室で開催し、36名のサポーターと山口大学人材育成センターから2名の参加がありました。

まず、保育サポーターバンクの黒川運営委員長からバンクの説明がなされた後、下関市の勝山保育園の中川浩一副園長から「子どもっと遊ぼう！～子どもの遊びと具体的な遊び場面の作り方～」と題するご講演をいただきました。

ずっと保育の現場で子どもたちと関わってこられた経験から、子どもが喜ぶ遊びや歌、身近なもので作れるおもちゃなど、盛りだくさんに紹介していただき、特に「昆虫太極拳」はみんなで体を動かしながら楽しみました。

「得意技のない人は、あなたの笑顔が一番です。」という言葉に、ほっとしたサポーターさんも多いのではないでしょうか。

地区別昼食懇談会では、バンクに対する要望や意見が出され、バンクの運営に大いに参考になりました。

次回も満足いただける研修会を企画中です。ご期待ください。

（講演抄録は本通信２ページに掲載）

平成26年度　保育サポーター研修会　講演抄録

『子どもっと あそぼう！』

～子どもの遊びと具体的な遊び場面の作り方～

勝山保育園　副園長
中川浩一　先生

はじめに

この研修会の講演依頼を受け、初めて山口県医師会の「保育サポーター」の取り組みを知りました。同時に保育現場で働くものとして、非常に共感を覚えました。また「保育サポーター」の皆様の活動により、一人の女性医師が大事な命と向き合う時間が確保されていることに大変に感動しました。また感謝しました。少しでも皆様の活動の力になれたらという思いで喜んでお引き受けいたしました。

保育サポーターとして

最初に、「子どもとサポーター」の皆様が、子どもと上手く関わる一寸したコツをお話ししました。それは、子どもが私たちの事を、「好き！すごい！」「面白い、楽しい！」と少しでも思ってもらえたら、その後の関わりにいい影響を与え続けるということです。そのためにも子どもにうける（よろこぶ）得意技を見つけ出す、探し出す、そして磨くことです。もちろん、得意不得意があると思います。絵本の読み聞かせや歌や動物の物まねでも絵書き歌などでも大丈夫です。また時にはダンスや踊りなど身体を動かす技を持っている人は、子どもの前で披露するだけで、きっとあなたの事が大好きになるはずです。でも、「ちょっと待って！そんなの無いわ。」と言われる方のために、今日のテーマ、楽しい「遊び」を子どもに提供することです。バラエティーに富んだあそびは、きっと子どもを虜にすると思います。そして最後に、どんな技よりもあそびよりも、子どもにとって一番なのは「あなたのやさしい笑顔」ということもお話をしました。

子どもを知る

次に、私たちが関わっている「子どもを知る」ことの大切さをお話ししました。生物学的に見ると、「子育て」は自然そのものです。ある意味「子ども」は、本来自然と育つものです。ただし、ほったらかしでは、立派な大人には育ちません。植木でいうところの時々の「手入れ」が必要なのです。「子育て」は、その加減とタイミングが大事で、関わりすぎ、離し過ぎは、禁物です。その「加減」が大事、「いい加減」の子育てがポイントです。

また3歳未満の子どもには、時間的概念はありません。つまり明日はないのです。今日を生きている、今を精一杯生きているのが子どもです。「明日遊ぼうね」とか「次回にしよう」といっても通じません。その余韻をどう作るか、そこが大きなポイントになります。

そして「子どもはあこがれて成長する」といわれます。昔から「まなぶはまねる」とも。どうか、「保育サポーター」は、子どもにとって「あこがれ」の存在であって下さい。

子どもの「あそび」とは？

「あそび」こそが、子どもの世界です。「あそび」に意味はありません。社会にとって何の役に立たないものが「あそび」です。ただし、車のハンドルの「あそび」があることでまっすぐ走るように、人が人らしく前を向いて生きていくために子どもも大人も「あそび」は必要です。あそびは、「三間」といわれます。時間・空間・仲間が必要です。「仲間」ということでは、こども同士の「あそび」は子どもの成長にとって大いに意味あることです。それと同じくらいに私は子どもと大人が「あそび」を通して関わることの大切さを感じて

います。それは、「あそび」といえども「小さな社会」のルールであったり、大げさかもしれませんが、人としての生き方の様なものを親以外の大人から教えてもらう意味は大きいと思います。「一人のこどもが大人になるまで関わる大人が多ければ多いほど、子どもは幸せ」、これは私や私の仲間が地域を舞台に子どもと関わる活動の柱にしている言葉です。さらに筑波大学名誉教授の門脇厚司氏は「子どもの本当の友だちは大人」と言われます。大人の私たちと子どもが一緒に遊ぶことは、子どもの成長にとって大きな意味あることと信じています。「保育サポーター」の皆様も、医療現場を側から支えるサポートということに留まらず、その時間、子どもに関わる自分自身の存在が、子どもの成長にとって貴重な時間を提供しているんだと自信をもって活動に励んでいただければと思います。

実践編

研修内容の半分は、座学だけでなく実際に身体を動かす「昆虫太極拳」や、「ひげじいさん」「アンパンマン」など手遊びを実践し、皆さんとちょっといい汗を一緒にかきました。また、新聞紙や風船、ボールと言った身近なものを使った具体的なあそびの提供についてお伝えしました。手軽で、怪我などのリスクの少ない、しかも楽しい「あそび」を紹介できたかなと思います。参加されたサポーターの皆様、真剣に画像や私のお話を聞いていただきました。拙い私の話に耳を傾けていただき感謝です。

おわりに

終わって暫くは、こんな話で良かったかなと反省頻りでしたが、事務局から参加されたサポーターさんのアンケートの感想をいただき、少しほっとしました。どうかこれからも、尊い使命を全うされる女性医師のため、子どもたちのため、そして何より自分自身のために、子どもと一緒に「こどもっと　あそぼう！」を合い言葉に、ハラハラ・ドキドキ・ワクワクの子ども心(アルマシオン)をもって楽しんでいって下さい。これからも「保育サポーター」としての活躍と子どもの未来を祈念して終わります。

利用者の声（平成 27 年８月）

サポートを受けられた方から感謝の声が寄せられています

● K先生　周東総合病院（小児科）

サポーター制度は引越し前に周南市でも利用させていただいておりました。

第二子を出産し、柳井市に引越し後、週2回非常勤医師として現在の病院に勤務することになりました。

年少の長男は幼稚園、乳児の長女は勤務日のみ院内保育園に行っております。週1回は長男の幼稚園のお迎えに間に合わないため、Mさんを紹介していただきました。

幼稚園へのお迎え、そして私の勤務が終わる夕方まで、Mさん宅で一緒にすごしてもらい、夕食も提供していただいております。長男は、少し年上のMさんのお孫さん二人とすぐに仲良くなりました。当日は、お孫さんたちとたくさん遊んでいるようです。

まだサポートが始まり2カ月程度ですが、すっかり慣れた長男は、幼稚園に行く前によく「今日はMさん（がお迎えの日）？」と訊き、週1回のサポート日が楽しみのようです。

また、サポートが始まってすぐ、長女が熱を出し、急きょ長女を預かっていただいたりもしました。両親が遠方におり、頼れる親族がいないため、サポーター制度はとても助かっています。

サポーターさんの声（平成27年8月　順不同）

◆霜井豊子さん　51歳　宇部市

初めてT君に会ったとき、ちょうど末娘の就職が決まって家を出ることになっていたので、サポートが始まるのが待ち遠しくて楽しみでした。

出会った頃は7か月だった彼も、今では1才3か月になり、日々の成長をご両親と共に見守る事が出来てとても嬉しく思っています。

交換ノートにも「今日は何歩歩きました。」など報告できたり、自分の子供の幼い頃を思い出し懐かしくもあり楽しくサポートさせていただいています。

お迎えに行ってからはずっと一緒に遊べるように、早めに夕食を作り、先生のおかずも栄養のバランスを考え、メインの肉や魚と共に野菜をたっぷり使って心をこめた愛情入りのお弁当を作っています。

始めのころは、久しぶりの離乳食にとまどいましたが、図書館で本を探してきてチャレンジし、Tくんのおかげで毎日充実しています。

◆長光　宏明さん　64歳
長光知香子さん　62歳　岩国市

自宅を開放して家庭文庫を開いて30年近くになります。自宅や図書館で、未就園児とお母さんを対象とした読み聞かせ活動をしているので、保育サポーターのことをお聞きした時に、何かお手伝いできるのではと思い登録しました。しかし、数年たっても依頼がないので、お断りしようかなと考えていた折、子どもさんのお迎えのオファーがあり、できる範囲内でOKならとの条件でお請けしました。

週2回、広島から岩国へ帰って来られる兄妹を駅から自宅までお送りしています。はじめはお互いにドキドキ緊張もありましたが、今では親しみも増し、ワイワイとお話をしながら15分のドライブを楽しんでいます。

私たちの3人の子どもたちも広島に通学していた経験もあり、その当時の親の忙しさに思いを重ねながら、また、昔の子育てのころを懐かしみながら運転しています。

時には、「今日は早く帰ります。」と連絡をもらっても、遠く離れた田舎の畑の中にいて、謝ることもあります。安全運転を第一にして、お迎えドライブにワクワク、ニコニコしている私達夫婦です。

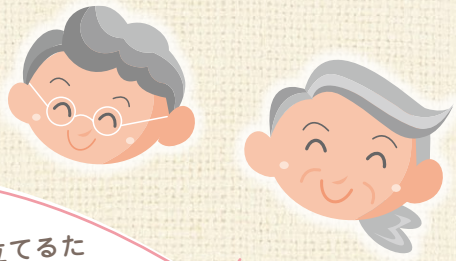
◆Sさん

保育サポートのお仕事をさせて頂いてから、早いもので2年が経ちました。

最初は、とにかくお預かりした子どもさんを、安全に怪我の無いように保育しなければとばかり思っていましたが、昨今の学校や学童保育における子ども達の暴力的言動や集中力の欠如など、心配な面も多く、将来の人間形成において大事なこの時期に、自分はどんな影響を与えているのだろうかと、最近は少し不安に感じたりしています。が、ともかく、自分の孫に接するように、時には厳しく見守っていくことが、今の自分に出来る精一杯なことなのかと思って、これからも、今後の子ども達の成長を楽しみに、保育サポートのお仕事をさせて頂くことに感謝しながら頑張っていこうと思います。

保育相談員より一言

サポーターさんへ



住所や連絡先の電話番号の変更があった場合は、必ず相談員へ連絡をお願いします。

より適切なマッチングに役立てるため、各地域で相談員とのミニ集会（ランチ付）を県内各地で予定しています。年１回の研修会に参加できない方は特にご参加よろしくお願いします。

with Lunch♪

女性医師の方へ

サポート開始後は、サポーターさんと直接のやりとりでかまいませんが、サポートを終了する場合は、サポーターさんにはもちろん、相談員にも連絡をお願いします。

サポート時に医師会が手続きする「賠償責任保険」は、交通事故には適用がありません。車での送迎をお願いする場合は、ご自身で、お子様に傷害保険をかけるなど対処をお願いします。

サポート日のキャンセルが、あらかじめわかっている場合は、なるべく早めにサポーターさんへ連絡するようにしましょう。

Cancel

知ってると役立つ
医学まめ知識　子どものロコモ？

医療法人南風会
山縣医院　山縣 茂樹

ロコモティブシンドローム(ロコモ)は運動器の機能が低下し、立ち上がりや歩行などの動作に制限をきたし、将来寝たきりや要介護状態に至る疾患群のことです。ロコモは年齢に比例して増加するため、高齢化社会にとっては、対策が大変重要です。変形性関節症や脊柱管狭窄症など運動器機能の低下する整形外科の疾患のほか、脳血管障害や糖尿病などもロコモの原因として重要で、若いころからの運動習慣や適切な食習慣などメタボ対策もロコモ対策につながります。少子化社会の現代、子ども達を心身ともに健全なおとなに育てることが社会全体の大きな目標と思います。

子ども達のからだに変化？

私たちが子どものころの50年前と比べて、子どもの骨折が多いような印象はあります。体格が向上すれば、運動能力も比例して向上するはずですが、そうはなっていません。子ども達の運動器に最近異変が起きていることは何となく感じられていましたが、整形外科のグループでその異変を明確にし、とるべき対策を検討するモデル事業が2005年ころから進められてきました。一例で言えば、**・万歳ができない・ボール投げができない・雑巾がけができない・かかとをつけたままでしゃがめない・前屈で手が地面につかない、などからだの硬い子どもたち**が多く指摘されています。

健やかな成長を願って

これらの子ども達の運動器の異変に対して、学校でも何らかの対策をすることが検討され、平成28年度学校健診から、脊柱および胸郭の異常に加えて、四肢・骨・関節の状態に関する質問が調査表に加わります。運動過多(オーバーユース)による異常とともに運動不足による種々の機能不全も検診でチェックする仕組みです。将来、すなわちおとなになって問題となる運動器疾患をできるだけ早い段階で見つけたい、という願いがこもっています。

これを機会に、ご家庭では日頃の子供たちの姿勢や動作、痛みなどに関心を持っていただくと同時に、私たち整形外科医もご家族や学校と今まで以上に連携をとっていきたいと考えています。

予告

平成27年度 研修会日程

サポーターの皆様へは改めてご案内を差し上げますが、下記のとおり開催予定です。万障繰り合わせてご出席くださるようお願いします。

日　時：平成 28 年３月 13 日（日）
10 時から 13 時

場　所：県医師会会議室
（山口市吉敷下東 3-1-1
山口県総合保健会館内）

講　演：講師…山口大学医学部附属病院
小児科　岡﨑史子先生
内容…子どものアレルギーについて

その他：保育サポーターバンクの説明、
地区別昼食懇談会

DATA 保育サポーター登録者数

（平成 27 年 10 月 1 日現在）

年齢別	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
（人）	7	22	47	42	14	132

地域別	（人）	地域別	（人）
下関市	26	光市	2
宇部市	31	長門市	2
山口市	21	柳井市	3
萩市	3	美祢市	2
防府市	5	周南市	13
下松市	4	山陽小野田市	10
岩国市	7	熊毛郡	2
大島郡	1		
		合計	132

編集後記

最近、保育サポーターの募集広告を新聞やフリーペーパーに掲載したところ、多くの問い合わせがありました。「子どもが大好き」「保育に関わる仕事をしていた」「せっかくのキャリアを遮ることなく仕事を続けていただきたい」「私でもお役にたてるなら」と皆さんから女性医師に対する応援のメッセージをいただきました。有難いことです。

立ち上げから6年間で活動した保育サポーターは、のべ95名になりました。時間帯などの条件から、まだ一度も活動されていない方もおられますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（保育相談員）

医師のみなさんへ

両立支援のための「保育サポーターバンク」をご活用ください。
保育相談員が要望をお聞きしてコーディネートします。
まずはお電話かメールでご連絡ください。
医師会加入の有無は問いません。

【問い合わせ先】
TEL：090-9502-3715
（月～木 9：00 ～ 17：00）
E-mail：hoiku@yamaguchi.med.or.jp

山口県医師会は育児中の医師を応援します！